

# げんき No.62

# カエル



兵庫県立こども病院  
ニュースレター



平成 30年(2018) 8月 1日

## アレルギーのトータルケアをめざします!

アレルギー科 笠井 和子

4月に小児アレルギー疾患センターがオープンしました。様々なアレルギーの病気、あるいは他の病気があるこどもたちのアレルギーに、多くの部門と連携しながら取り組むために設置されたものです。また同時にアレルギー疾患に対応する兵庫県の拠点病院として認定され、難治性の病気に対する最新治療を行うことや専門の医療従事者の育成などを担っていくことが使命です。こどもたちを取り巻くあらゆる場面で起こる問題に、教育関係などいろんな分野の方々とも連携し、取り組んでいきます。

アレルギーの病気は今や国民病といわれ、わが国では2人に1人がなんらかのアレルギーの病気を持っているというデータがあります。代表的なアレルギーの病気は、食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・喘息・アレルギー性鼻炎(花粉症を含む)です。これらは別々の病気のように見えますが、お互いに関連しています。例えば花粉症の場合、私たちが症状として認識できる部位は目・鼻・気管・皮膚と様々ですが、アレルギーの活動性が高くなって表現された一元的な現象としてとらえることができます。そのため部分的な治療だけではうまくいかず、トータルケアによってすべてのアレルギーの病気がコントロールされていることが大事なポイントなのです。そして病気の活動性を抑えておくことは、新たなアレルギーの成り立ちを防ぎ、予防につながります。

アレルギーは基本的には長くつきあっていくことが多い病気です。その時々で困っているかどう

かだけではなく、今後できるだけうまくアレルギーとつきあっていく、あるいはつきあいを減らすためにどのような工夫をしたらよいか、長い目で戦略を立てることが大切です。アレルギーの治療も少しずつ進歩しています。根本的に治す治療として、ダニアレルギーやスギの花粉症に対する舌下免疫療法は有効です。また難治性の喘息やアトピー、蕁麻疹などに対する新しい薬剤(生物学的製剤)が次々と登場しており、治療は新たな展開を迎えています。当センターではアレルギー専門看護師を含めた多職種スタッフと一緒に、こどもたちの生活全体の中でアレルギーをとらえ、寄り添う診療を心がけていきます。





## 患者家族手記

林 佳世子

長女は二年前、小学校一年生で白血病を発病し入院期間中はほとんど自宅に帰れず次女とも会えない生活を約一年間送りました。院内学級から通常の小学校へ戻る際、体力の低下や髪の毛の無い容姿、この病をどう伝えるべきか悩んでこの一年間の闘病生活の紙芝居を彼女と二人で入院中に作りました。そして辛い治療をのりこえるたびにもらった勇気のビーズ約350個を手にはクラスの皆へこの一年間の頑張りを伝えました。



退院後は同時期に同じ病で戦っ

ていた大好きなお姉ちゃんを追ってダンスチームへ加入。そしてがん撲滅チャリティーイベントでも紙芝居を披露させて頂きました。「自分は入院している子の気持ちがわかるから紙芝居する」彼女自身の意思と行動でした。当時、同じ階で入院していたメンバーでこのような活動をするなんてその時は思いもしませんでした。今、私たちに出来る唯一の事として体験談を語り、病気の研究費用などへの寄付を皆で呼びかけました。



治療は大変苦しいものであり、その中でもたくさんのお会い、悲しい別れがありました。しかし、それは彼女の中で辛く悲しい経験だけで

終わらずに小さいなりに色々なことを感じ親が思う以上の大きな心の成長を遂げていました。家族全員で全てを犠牲にして戦った一年間。次女は髪がなくなった長女が一人だけだと可哀想だからと自ら丸坊主にして保育園へ通いました。闘病中はとにかく一日一日が必死だった中で、子供達は小さな成長を重ね強くなっていたのだと今、改めて思います。こども病院に関わる子供達みんなに切に願います。「あなたは何も悪くないこれからも前を向いて強く生きてほしい」





## ボランティア活動を通して

安井 友花

私は看護学生です。兵庫県立こども病院で週1回、1時間半程度ボランティア活動を行って2年目になります。活動を始めたきっかけは、看護学生として日々学ぶ中で小児看護学に関心があったからです。最初の1年間は1階の外来で病棟案内やプレイルームで、兄弟の診察を待つお子様と遊びなどを行っていました。また、ご家族の方とお話させていただく中でさまざまな思いを聞かせて頂き、ご家族の思いに寄り添うことの大切さについて考え学ぶこともありました。今年の1月からは病棟のプレイルームやベッドサイド活動しています。病棟では長期入院のお子様も多いためボランティアに行くたびに仲良くなり、さまざまなことを話してくれるようにな

りました。そして、車椅子だった子が歩けるようになっていたり、元気に退院していく姿を見ると、私も頑張ろうといつも元気をもらっています。これからも、ボランティア活動を通して看護師をめざす自身の成長と、お子様にとって長い入院生活の中で少しでも憩いの時間が過ごせるようなボランティア活動を行っていきたいと思います。

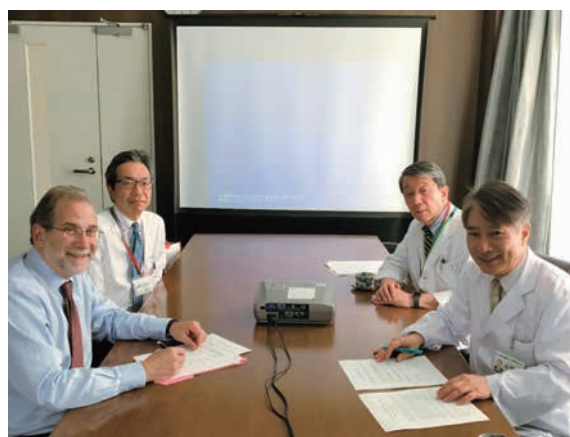


## シアトル小児病院 副院長 Melzer先生が来院 —姉妹病院提携を更新—

国際交流推進委員会  
田中 亮二郎

2009年から毎年2-3名の当院の医師・看護師らがシアトル小児病院を訪問し、1ヶ月の各専門分野の研修を受けてきました。これまでで27名となります。その研修プログラムのシアトル小児病院側の責任者がMelzer先生です。これまで先生は、数回当院を訪問されていますが、今回(4月16日)当院の移転後初めての来院でした。まず懸念事項であったシアトル小児病院との姉妹病院提携を5年間更新することが

できました(写真)。その後講堂で「Trends in US Medical Education」という題で1時間の講演をしていただきました。現在のアメリカの医学生教育に関するものでしたが、当院での専攻医教育にも通じるものがありました。今後さらに2病院の交流が活発になるようにします。



中尾院長と Dr. Melzer が  
姉妹病院提携の更新に署名しました。

## 新任からのご挨拶



管理局長  
東鬼 正明

本年4月に事務部門の管理局長となりました東鬼(とうき)正明です。当院は、兵庫県における小児・周産期医療の中核病院として、こどもたちの健康とすこやかな成長を支える最善の医療の提供をめざしています。そして、そのためには、病院に勤務する様々な職種の職員が各々の職責を果たしつつ、互いに理解し協力し合うチーム医療がとても大切だと考えています。爽やかで風通しが良く、活気溢れる病院として、昨年12月にオープンした「県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター」をはじめ、地域の医療機関とも密接に医療連携しながら、これからも皆さんに信頼していただける病院づくりに取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い致します。



看護部長  
桧垣 美香子

4月に着任いたしました看護部長の桧垣です。当院は、ポートアイランドという新たな地に移転し、3年目を迎えました。新たな歴史を刻みながら、「高度専門医療の提供とこども達の健やかな成長を支援する」という理念に向かって勇往邁進しております。看護部は600名を越える看護職員を配置し、チーム医療に携わっています。今年度は、医療的ケアを必要とする患者様とご家族が安心して地域・在宅で生活できる支援体制の強化と個々の看護職員のスキルアップを課題として取り組んでまいります。そして、歴史ある小児専門病院として専門的技術を伝承しながら新たな知と融合させ、こどもの「笑顔」と「頑張る力」を引き出す『笑児(しょうじ)看護』をめざします。



中尾院長と新任医師  
医局歓迎会にて



### Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

### ●基本方針

1. 患者の権利を尊重した医療の実践
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



## 編集後記

この春、小児アレルギー疾患センターの開院、100名を超える新入職員を迎えて新病院移転3年目に入りました。海外の医療機関との情報交換も進めながら、医療体制の充実を図っていきます。今年度は下記の委員で編集を担当いたします。紙面へのご要望がございましたらお寄せください。編集の参考にさせていただきます。

委員 長：大津雅秀  
委員 員：濱田啓子 深江登志子  
西森玲治 山口善道  
坂田亮介 笠木憲一  
井口秀子 橋本恵美  
廣瀬悦子 三輪祐太郎  
畑友紀子 森泰隆

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院  
HYOGO PREFECTURAL  
KOBÉ  
CHILDREN'S  
HOSPITAL

〒650-0047  
神戸市中央区港島南町1丁目6-7  
TEL. 078-945-7300  
FAX. 078-302-1023  
<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>  
e-mail:info\_kch@hp.pref.hyogo.jp